

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた 小平市の取組報告書



令和4(2022)年3月

目 次

はじめに	2
1. 気運醸成のための取組	
(1) 記念イベントの開催	4
(2) イベントに合わせたブース出展	6
(3) 広報・周知活動	6
(4) 東京 2020 大会エンブレム等を活用した装飾	7
(5) 東京都・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携	8
2. レガシー創出のための取組	
(1) スポーツの振興・パラスポーツの普及	12
(2) 文化の振興・魅力発信	14
(3) 共生社会の推進	14
(4) まちの魅力発信とおもてなし力の向上	15
(5) 市民参加・協働の推進	17
3. 東京 2020 大会開催時の取組	
(1) 聖火リレー	18
(2) 小平市ゆかりの選手応援イベント	19
4. 市民協働・地域連携の取組	
(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクト	20
(2) スポーツ&カルチャーフェスティバル in こだいら	22
(3) 地域の団体との連携	24
5. レガシー	26
(1) スポーツ習慣の定着	
(2) 芸術文化の裾野拡大	
(3) 共生社会の推進	
(4) まちの魅力発信とおもてなし力の向上	
(5) 子どもたちの記憶に残る学びと経験	
(6) 市民参加・協働の推進	
(7) スポーツ施設の改善	
(8) 多言語対応の推進	
6. 資料	
(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 大会概要	27
(2) 東京 2020 大会に向けた小平市の庁内体制	28

はじめに

平成 23 (2011) 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、日本中が混乱する中、令和 2 (2020) 年のオリンピック・パラリンピック競技大会の誘致を行うかどうかの是非について、議論が重ねられました。

東京都では、「東京 2020 大会の開催は、大震災から立ち直った日本の姿を示すこととなり、世界中から寄せられた友情や励ましへの返礼となる」、「大会を通じて次代を担う若者たちに夢と希望を贈ることは、日本の将来にとっても大きな意義がある」と考え、招致を決意し、平成 25 (2013) 年 9 月に開催都市が東京に決定されました。

令和 2 (2020) 年の開催年となり、オリンピック・パラリンピックの準備が着々と進む中、同年 1 月 15 日には、国内で初の新型コロナウイルス感染症の感染者が確認され、3 月下旬からは感染者が急増したことにより、史上初の開催延期が決まりました。その後開幕直前まで、世の中には、コロナ禍でなぜ大会を開くのかを問う声もある中、令和 3 (2021) 年 7 月に東京 2020 オリンピック競技大会、8 月には東京 2020 パラリンピック競技大会が開催されました。

本大会は、海外からの観客の受け入れを断念し、国内についても、ほとんどの会場において無観客とするなど他の国内スポーツ大会よりも厳しい対策を実施し、安全最優先の方針の中での開催となりました。

しかし、このような困難の中でも、オリンピック・パラリンピックの開催は、コロナによって分断された世界をスポーツの力でふたたびひとつにし、人々の繋がりや絆の再生に貢献しました。このことが、今の社会に必要なオリンピック・パラリンピックの価値となり、大きなレガシーとなったと言えます。

小平市におきましては、トップアスリートの活躍を間近で見ることにより、子どもたちがオリンピック・パラリンピックの素晴らしさを実感するとともに、スポーツへの関心を高め、夢に向かう努力や困難を克服する意欲を培い、その後の人生の糧となるよう思いを込め、他自治体に先駆けて、平成 29 (2017) 年度に「小平市東京オリンピック・パラリンピック子ども夢・未来基金条例」を創設しました。

また、東京都では、小平市の子ども夢・未来基金の創設と趣旨を同じくして、東京 2020 大会における子どもの競技観戦として、「学校連携観戦プログラム」の事業実施が表明されました。

平成 30 (2018) 年 8 月には、「東京 2020 オリンピック・パラリンピックをきっかけに、

世代・地域・国籍・文化のちがいが、障がいの有無を超えて、人と人とがつながり、認め合い、感動体験を共有することで、未来にわたって「みんなの思いを包み込むまち小平」をつくること」を設置目的として、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクト」が、市民の方々の思い・力により立ち上がりました。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、市の事業や市民の方々による事業が制約を受けるなか、子どもたちの観戦事業をはじめとして、東京 2020 大会の開催に併せて実施すべく準備を進めてきた市の事業も中止を余儀なくされました。

しかし、このような状況においても、市民の方々の力により、小平市いきいき協働事業として開催された「スポーツ&カルチャーフェスティバル in こだいら」では、昔遊びやポッチャの体験、文化ステージが行われ、たくさん子どもたちが参加しました。また、小平市ゆかりの選手を応援するための動画に選手の出身校の児童に参加していただくなど、子どもたちにかげがえのない感動の記憶を残すことができました。このほかにも、スポーツ・文化・観光・市民協働など多くの分野で東京 2020 大会を契機とした取組が進み、各分野に様々なレガシーを残すことができました。そして何より、東京 2020 大会をきっかけとして繋がった市民の絆が、小平市の大きな力となり、レガシーとなりました。

小平市では、東京 2020 大会をきっかけに生まれたレガシーを地域コミュニティの活性化や共生社会の実現につなげ、誰もが自分らしく生きられる多様性を尊重するまちづくりを推進してまいります。

最後に、東京 2020 大会に向けた取組にご協力いただいた関係団体の皆様、小平市にレガシーを残すべく主体的に取り組んでいただいた市民の皆様に心より感謝申し上げます。

1. 気運醸成のための取組

(1) 記念イベントの開催

オリンピック・パラリンピック500日前イベント

「東京2020に向けたトークセッション in 小平」

平成31年3月22日 来場者：60人

東京2020大会の500日前を盛り上げることを目的に、「東京2020に向けたトークセッション in 小平」と題し、イベントを開催しました。

小平市ゆかりの選手であるモントリオールオリンピック女子バレーボール金メダリストの吉田昌子さんや、小平市観光まちづくり大使である女流棋士の上田初美さんなど、スポーツ・文化の分野で活躍する多彩なゲストを迎え、オリンピック・パラリンピックの魅力や東京2020大会に参画することへの期待についてお話しいただきました。

また、小平市、小平商工会、こだいら観光まちづくり協会、市民団体である東京2020オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクトから、東京2020大会に向けた各団体の取組を紹介し、参加者へ大会への参画を呼びかけました。

オリンピック・パラリンピック1年前イベント

「オリンピック・パラリンピック競技を体験しよう！」

令和元年7月27日、8月25日 来場者：2日間延べ2,851人

東京2020大会の1年前を盛り上げることを目的に、「オリンピック・パラリンピック競技を体験しよう！」と題し、イベントを開催しました。

7月27日には、プロバスケットボールの選手による模範試合や教室を行い、たくさんのお子様たちが、プロの迫力あるプレーに、目を輝かせながら声援を送っていました。そのほか、FC東京によるキックターゲット、小平市体育協会加盟団体のご協力のもとアーチェリーの体験やバドミントン、卓球の的当てコーナー、市民団体によるポッチャの体験会やオリンピック・パラリンピックに関する展示、小平商工会による小平ゆかりの選手応援ブースなど、多くの団体が連携し、オリンピック1年前を盛り上げました。最後は参加者みんなで東京五輪音頭-2020-や新こだいら音頭を踊り、イベントを締めくくりました。

8月25日には、小平市ゆかりの選手であるパラ卓球の佐藤泰巳選手をゲストに迎え、トークショーと体験会を行いました。参加者は佐藤選手のお話に熱心に耳を傾けていました。



オリンピック・パラリンピック200日前イベント

「オリンピック選手とノルディックウォーキング」

令和2年1月5日 参加者：42人

東京2020大会の200日前を盛り上げることを目的に、「オリンピック選手とノルディックウォーキング」と題し、毎年開催される「新春歩け歩けのつどい」と同時開催でイベントを開催しました。

ノルディックスキー複合の金メダリスト 荻原健司さんをゲストに迎え、トークショーのあと、新春歩け歩けのつどいのコースをノルディックウォーキングで歩き、参加者は荻原さんと一緒に写真を撮ったり、お話ししたりと和やかな時間を過ごしました。荻原さんからは、長野オリンピックでの経験から、選手にとって応援が大きな力となること、日本で開催される東京2020大会をぜひ盛り上げてほしいとのお話がありました。



(2) イベントに合わせたブース出展

① 小平市民まつり（平成30年度、令和元年度）

東京2020オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクトの皆さんとともに、小平市民まつりにブースを出展しました。

ブースでは、オリンピック・パラリンピックに関するクイズやオリンピック・パラリンピックに対する市民の意識を調査するためのアンケートを実施したほか、初めて屋外でポッチャの体験を実施しました。



② 国際交流フェスティバル（平成30年度、令和元年度）

国際交流フェスティバルにブースを出展し、オリンピック・パラリンピックをPRしました。

ブースでは、東京2020オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクトの皆さんがオリンピック・パラリンピックに関するクイズや、ポッチャの体験を実施しました。



(3) 広報・周知活動

市報こだいらや市役所職員向けの庁内報で、東京2020大会に向けた取組や市ゆかりの選手の活躍などの情報を発信しました。

① 市報こだいら

- ・平成28年8月5日号 : リオデジャネイロオリンピック特集
- ・平成29年1月1日号 : 小平から世界を目指すアスリート
- ・平成29年9月20日号 : 障がい者スポーツで活躍する選手たち
- ・平成30年1月1日号 : 東京2020に向けて やさしい日本語でおもてなし
- ・平成30年8月20日号 : 東京2020へ向けて 私たちにできること
- ・平成31年1月1日号 : 東京2020オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクトの活動
- ・令和2年1月1日号 : 小平ゆかりの選手 小田倉真選手（トライアスロン）
- ・令和3年8月20日号 : 小平ゆかりの選手が躍動 東京2020オリンピック



② オリンピック・パラリンピック小平子ども新聞とオリ・パラ通信

平成30年度に、市役所職員で構成されるプロジェクトチームが企画立案し、子ども新聞を発行しました。市内の小学生を対象に記者を募集し、16人の子ども記者が市内の錦城高校新聞委員会の生徒から記事の書き方や写真の撮り方のレクチャーを受け、新聞を完成させました。

スポーツ分野ではFC東京の選手とパラ卓球の選手を取材しました。文化分野では平藤田中彫刻美術館の彫刻道場で、実際に彫刻を体験し、記事を書きました。

プロジェクトチームでは、この他にも庁内向け「オリ・パラ通信」を発行し、小平市ゆかりの選手の活躍やメンバーが所属する部署のオリンピック・パラリンピックに向けた取組などを紹介しました。



③ パスファインダー

図書館で資料や情報を探す際の手引となる「パスファインダー」。平成29年度、その第1弾として、オリンピック・パラリンピックについて調べるための情報源をリストアップした「オリンピック・パラリンピックについて調べる」を発行しました。掲載している情報源は図書のみならず、インターネットサイトや小平市特有の収集資料である郷土写真などにも及び、郷土写真からは東京1964大会当時の小平市の様子を知ることができます。

④ 庁内報

平成29年度：祝 第47回世界体操選手権金メダル 村上茉愛選手報告会

平成30年度：食・農・文化めぐりん小平

令和元年度：東京2020オリンピック・パラリンピック1年前イベント

令和3年度：東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレー



(4) 東京2020大会エンブレム等を活用した装飾

東京2020大会を市内全域で盛り上げるため、懸垂幕、横断幕、のぼり旗などを各公共施設に掲出しました。

東京2020大会開催期間には、市民総合体育館とルネこだいらの周辺に横断幕を掲出し、シティドレッシング（市内装飾）を行いました。



中央公園テニスコート



市民総合体育館



市役所



ルネこだいら



中央公園

(5) 東京都・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携

① 東京 2020 オリンピック・パラリンピック フラッグツアー

オリンピック・パラリンピックフラッグが都内62市区町村を巡回しました。

小平市では、平成29年3月25日、アンバサダーに元オリンピック（女子バレーボール）で小平市観光まちづくり大使の大林素子さんを迎え、市役所庁舎南側市民広場でフラッグを歓迎するセレモニーを開催しました。

平成30年度はこだいら環境フェスティバル、令和元年度はオリンピック・パラリンピック1年前イベントに合わせて、オリンピック・パラリンピックフラッグを展示しました。



② 東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」

パラリンピック競技の普及啓発と東京2020大会の気運醸成のため、東京都が都主催イベントや都内62市区町村で展開したパラリンピック競技体験プログラムです。

小平市では、中央公園グラウンドでこだいらグリーンフェスティバルと同時開催しました。平成29年度は射撃と車いすレーサー、平成30年度はボッチャと5人制サッカーの体験を実施しました。



③ パラリンピック選手発掘プログラム

パラスポーツの選手発掘、競技力向上のため、東京都が実施したプログラムです。

平成30年度は小平市民総合体育館が会場となり、本プログラムが実施されました。

④ 東京五輪音頭-2020-

1964年の東京オリンピックのテーマソングである「東京五輪音頭」のリメイク版です。

小平市では公民館・小中学校等へCD・DVDを配布しました。

市民団体「東京2020オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクト」が、自治会などで踊り方講習会を実施したほか、みんなでつくる音楽祭をはじめ多くのイベントで踊りを披露し、東京2020大会に向けた気運醸成に繋がりました。



⑤ 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

東京2020大会で使用するメダルを、使用済み携帯電話等から出るリサイクル金属でつくる東京2020組織委員会のプロジェクトです。

小平市でも平成29年4月から平成31年3月まで本プロジェクトに参加し、公共施設や市主催イベント開催時の出展ブースに専用回収ボックスを設置しました。

⑥ 東京 2020 参画プログラム

オリンピック・パラリンピックの気運醸成とレガシー創出に向けた取組の促進を目的として、各団体が東京 2020 大会に向けて実施するイベントや事業を東京 2020 組織委員会が認証するプログラムです。小平市でも、市民が参加できるイベントについて積極的に申請を行い、東京 2020 大会の開催に向けた気運醸成に取り組みました。

小平市の公認プログラム認証件数：90 件（平成 28 年度～令和 3 年度）※中止事業含む



平成 28 年度 東京 2020 公認プログラム認証事業一覧			[1 件]
	事業名	所管部署	分野 (テーマ)
1	オリンピック・パラリンピック講演会 「リオ 2016 活動報告会～東京 2020 大会に向けて～」	文化スポーツ課	スポーツ・健康

平成 29 年度 東京 2020 公認プログラム認証事業一覧			[21 件]
	事業名	所管部署	分野 (テーマ)
1	みんなのメダルプロジェクト	資源循環課	持続可能性
2	小平市文化プログラム 小平市平櫛田中彫刻美術館 木彫公開制作&企画展 「でんちゅうストラット」	文化スポーツ課	文化
3	ノルディック・ウォーキング体験事業	文化スポーツ課	スポーツ・健康
4	小平市立図書館パスファインダー No.1 「オリンピック・パラリンピックについて調べる」	図書館	教育
5	あなたもチャレンジ！オリンピックに向け、英会話でおもてなし	公民館	教育
6	友・遊こどもまつりスポーツ体験イベント 「スポーツクリニック 2017 体育の家庭教師が子どもたちのお悩みサポート！」	公民館	スポーツ・健康
7	講演会「2020 年に向けたコミュニティ活動・おもてなし」	文化スポーツ課 公民館	スポーツ・健康
8	市民スポーツまつり	文化スポーツ課	スポーツ・健康
9	馬頭琴・ホーミーコンサート - 「スーホの白い馬」の国、モンゴルから-	図書館	教育
10	小平市平櫛田中彫刻美術館 特別企画 メダルの魅力	文化スポーツ課	文化
11	オリンピック参加国について学んで応援しよう	公民館	教育
12	中央公民館サークルフェア 2017	公民館	教育
13	外国人おもてなし事業	文化スポーツ課	文化
14	茶道にチャレンジ	公民館	文化
15	めぐりん小平 2017	文化スポーツ課	まちづくり
16	人権 (LGBT) 講座「私が私らしく生きるって？-性の多様性について知ろう」	市民協働・ 男女参画推進課	まちづくり
	デートDV 防止講座「イチからわかるデートDV」		
17	(投票宣言) 小平市は、投票に参加します (マスコット投票)	文化スポーツ課	教育
18	障害者差別解消法啓発講演会	障がい者支援課	まちづくり
19	2020 年受動喫煙のない社会を目指して	健康推進課	スポーツ・健康
20	講演会・ワークショップ「東京 2020 に向けた市民ミーティング in 小平」	文化スポーツ課	まちづくり
21	家族みんなで はじめよう こだ健体操	健康推進課	スポーツ・健康

1. 気運醸成のための取組

平成30年度 東京2020 公認プログラム認証事業一覧			[26件]
	事業名	所管部署	分野(テーマ)
1	小平市障がい者運動会	障がい者支援課	スポーツ・健康
2	みんなが楽しめるポッチャで仲間づくり	公民館	教育
3	池谷幸雄の親子体操教室	公民館	教育
4	小平グリーンロード灯りまつり	産業振興課	祭りプログラム
5	2020年東京大会に向かって こだいら健康ポイント事業でもっと健康に	健康推進課	スポーツ・健康
6	みんなで作る音楽祭 in 小平	公民館	文化
7	東京2020オリンピック・パラリンピックを感じるスタンプラリー 食・農・文化めぐりん小平	産業振興課 文化スポーツ課	文化
8	小平市立図書館パスファインダー番外編 「明治150年について調べる」	図書館	文化
9	小平市オリンピック・パラリンピックこども新聞	秘書広報課 文化スポーツ課	教育
10	こだいら環境フェスティバル2018	資源循環課	持続可能性
11	「でんちゅうストラット」・彫刻ワークショップ	文化スポーツ課	文化
12	第56回小平市民文化祭	文化スポーツ課	文化
13	ノルディック・ウォーキング教室	文化スポーツ課	スポーツ・健康
14	市民スポーツまつり	文化スポーツ課	スポーツ・健康
15	小平市平櫛田中彫刻美術館 人形浄瑠璃公演	文化スポーツ課	文化
16	小平市 景観まちづくりセミナー	都市計画課	街づくり
17	外国人おもてなし事業	文化スポーツ課	文化
18	第5回小平市日本語発表会	文化スポーツ課	街づくり
19	こだいらの遺跡をあるく	文化スポーツ課	文化
20	中央公民館サークルフェア2018	公民館	文化
21	新春歩け歩けのつどい	文化スポーツ課	スポーツ・健康
22	こだいら市民駅伝大会	文化スポーツ課	スポーツ・健康
23	市民学習奨励学級 ポッチャで国際交流	公民館	教育
24	人権(LGBT)講座	市民協働・ 男女参画推進課	街づくり
25	小平市中央図書館ティーンズ向け展示 「東京2020オリンピック・パラリンピックまでに世界をみてみよう」	図書館	教育
26	東京2020に向けたトークセッション in 小平	文化スポーツ課	スポーツ・健康

令和元年度 東京2020 公認プログラム認証事業一覧			[32件]
	事業名	所管部署	分野(テーマ)
1	小平グリーンロード歩こう会	文化スポーツ課	スポーツ・健康
2	小平市障がい者運動会	障がい者支援課	スポーツ・健康
3	【CO2削減吸収】小平市環境家計簿によるCO2削減・吸収活動	環境政策課	持続可能性
4	【CO2削減吸収】エコチャレンジの木によるCO2削減・吸収活動	環境政策課	持続可能性
5	オリンピック・パラリンピック競技を体験しよう	文化スポーツ課	スポーツ・健康
6	小平グリーンロード灯りまつり	産業振興課	祭りプログラム
7	東京吹奏楽団コンサート	文化スポーツ課	文化
8	古民家コンサート「マリンバで紡ぐ秋のしらべ」	文化スポーツ課	文化
9	第12回「丸いポストのある風景」ポストカードフォトコンテスト	文化スポーツ課	文化
10	展覧会「でんちゅうストラット」・木彫ワークショップ	文化スポーツ課	文化
11	食・農・文化めぐりん小平2019	文化スポーツ課 産業振興課	街づくり

	事業名	所管部署	分野(テーマ)
12	ルネこだいら出前コンサート 長唄三味線と尺八・笛の多彩な世界	文化スポーツ課	文化
13	親子で空手体験!空手でビシッと決めよう!	公民館	教育
14	第57回小平市民文化祭	文化スポーツ課	文化
15	市民スポーツまつり ※開催中止	文化スポーツ課	スポーツ・健康
16	車いすスポーツ体験でバリアフリーの仲間づくり	公民館	教育
17	陸上自衛隊中央音楽隊 小平演奏会	文化スポーツ課	文化
18	2019こだいら合唱団西東京フィルハーモニーオーケストラ演奏会	文化スポーツ課	文化
19	ノルディック・ウォーキング体験教室	文化スポーツ課	スポーツ・健康
20	市民ピアノリレー	文化スポーツ課	文化
21	東京消防庁音楽隊小平特別演奏会	文化スポーツ課	文化
22	第11回 児童絵画コンクール作品展	文化スポーツ課	文化
23	人権(LGBT)講座 「みんな違って、みんないい～当事者と学ぶ性の多様性とその生きづらさ～」	市民協働・ 男女参画推進課	街づくり
24	新春歩け歩けのつどい	文化スポーツ課	スポーツ・健康
25	第26回ルネフォトコンテスト	文化スポーツ課	文化
26	たまほくミュージック フェスティバル ※開催中止	文化スポーツ課	文化
27	ルネこだいら吹奏楽フェスティバル ※開催中止	文化スポーツ課	文化
28	小平ふるさと村 節分の豆まき	文化スポーツ課	文化
29	ルネこだいら出前コンサート	文化スポーツ課	文化
30	ふるさと村寄席 ※開催中止	文化スポーツ課	文化
31	ふるさと村春の和楽器演奏会 ※開催中止	文化スポーツ課	文化
32	外国人おもてなし講座	文化スポーツ課	街づくり

令和2年度 東京2020公認プログラム認証事業一覧

[7件]

	事業名	所管部署	分野(テーマ)
1	小平グリーンロード歩こう会	文化スポーツ課	スポーツ・健康
2	小平市障がい者運動会 ※開催中止	障がい者支援課	スポーツ・健康
3	池谷幸雄の親子体操教室	公民館	教育
4	オリンピック・パラリンピック参加国について学んで応援しよう	公民館	教育
5	ノルディック・ウォーキング体験教室	文化スポーツ課	スポーツ・健康
6	人権(LGBT)講座「性別」の枠を超えて～自分らしく生きられる社会へ～	市民協働・ 男女参画推進課	街づくり
7	新春歩け歩けのつどい ※開催中止	文化スポーツ課	スポーツ・健康

令和3年度 東京2020公認プログラム認証事業一覧

[3件]

	事業名	所管部署	分野(テーマ)
1	小平グリーンロード歩こう会	文化スポーツ課	スポーツ・健康
2	オリンピック・パラリンピック参加国について学んで応援しよう	公民館	教育
3	防災・減災に男女共同参画の視点を～安全で配慮ある多様な支援とは	市民協働・ 男女参画推進課	街づくり

2. レガシー創出のための取組

(1) スポーツの振興・パラスポーツの普及

▽目的

東京 2020 大会を契機として、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の関わり方で捉え、体力、年齢、障がいの有無にかかわらず取り組むことができるユニバーサルスポーツを推進することで、市民が身近な地域でスポーツに親しむことができる環境づくりを目指す。

▽事業

ノルディックウォーキング教室（平成 27 年度～令和 3 年度）

ノルディックウォーキングは、通常のウォーキングに比べて、足腰への負担を軽減しつつ全身運動ができることから、子どもから高齢者まで幅広い世代の人が気軽に体験できるスポーツです。平成 27、28 年度は、市民団体の協力を得て教室を実施し、平成 29 年度には「小平市いきいき協働事業」を活用し、市民との協働事業として教室とイベントを開催しました。平成 30 年度からは小平市体育協会への委託事業として継続的に教室を実施するとともに、毎年開催される歩け歩け事業にもノルディックウォーキングを取り入れることで、市民へのさらなる定着を目指しています。



スポーツボランティア研修会（平成 28 年度～令和 3 年度）

平成 28 年度から日本スポーツボランティアネットワークと連携し、スポーツボランティアの楽しみ方ややりがいをテーマとした研修会を開催しています。6 年間で約 200 人の方が参加し、市のスポーツボランティアへ登録し、市内のイベントで活動するほか、ラグビーワールドカップや東京 2020 大会のボランティアで活躍した方も数多くいました。



パラリンピック競技体験（平成 27 年度～令和 3 年度）

パラスポーツの認知度向上を目指し、毎年開催される市民スポーツまつり等においてパラスポーツ選手を招き、パラリンピック競技の体験会を実施しました。

平成 27 年度：ゴールボール

平成 28 年度：車いすバスケットボール

平成 29 年度：卓球・ポッチャ

平成 30 年度：ウィルチェアラグビー

令和元年度：レース用車いす・ポッチャ

令和 3 年度：ブラインドサッカー



ポッチャに関する取組（平成 28 年度～令和 3 年度）

パラリンピック競技であり、障がいの有無にかかわらず、子どもから高齢者まで一緒に楽しむことができるスポーツである「ポッチャ」を取り入れた事業を実施しました。

平成 28 年度、平成 29 年度に小平市社会福祉協議会、東京都障がい者スポーツ協会と連携し、障がい者スポーツ体験教室やポッチャ交流会を実施しました。その後、公民館や市民団体へポッチャが広がり、今では市内の至る所でポッチャが行われています。

また、令和 4 年 3 月には、小平市スポーツ推進委員会の主催事業として、小平市で初めてポッチャ大会（こだいらポッチャ大会～こだッチャ杯～）が開催され、子どもから高齢者まで幅広い世代の方が参加し、スポーツを通じた交流を行いました。



子どもを対象としたスポーツ教室（平成 27 年度～令和 3 年度）

子どものスポーツ習慣の定着を促進する取組として、東京都市長会の多摩・島しょスポーツ習慣定着促進事業助成金を活用し、市内小中学生を対象に、様々なスポーツ教室を実施しました。

平成 27 年度：トップ選手に学ぶ！ジュニアバドミントン教室

平成 28 年度：「チーム」のための少年野球教室

平成 29 年度：卓球ジュニア育成講習会

平成 30 年度：FC東京によるサッカーレベルアップ講習会

令和元年度：「走る」「投げる」「蹴る」といったスポーツの基礎を学ぶ教室及び車いすバスケットボール国際強化試合観戦

令和 2 年度：アルティメットの体験授業

令和 3 年度：ポッチャの体験授業

※令和 2 年度、3 年度は市内小学校と連携し、体験授業として実施



親子体操教室（平成 30 年度、令和 2 年度）

オリンピックの体操競技でメダルを獲得した池谷幸雄さんを講師に招き、親子で参加する体操教室を実施しました。池谷さんから夢や目標を持つことの大切さ、大きな声を出すこと、必ず返事をする事など、礼節の大切さを学び、実技では直接指導を受けることで参加者は大きな感動を受けることができました。



(2) 文化の振興・魅力発信

▽目的

東京 2020 大会までに行われる文化プログラムへの取組を、文化芸術の裾野を広げ、小平市の芸術文化の魅力を国内外に発信する好機と捉え、行政・関係団体・大学・市民等が連携して文化事業を実施することで、東京 2020 大会を契機とした継続的な文化振興の推進につなげることを目指す。

▽事業

平榊田中彫刻美術館 展覧会「メダルの魅力」(平成 29 年度)

彫刻家が手がけたメダルを展示しました。

また、関連イベントとして、モントリオールオリンピック女子バレーボール金メダリスト吉田昌子さんの金メダル展示とトークイベントを開催しました。



平榊田中彫刻美術館 展覧会「でんちゅうストラット」(平成 30 年度～令和 3 年度)

武蔵野美術大学と連携して、武蔵野美術大学で彫刻を学ぶ学生を中心とした彫刻作品を平榊田中彫刻美術館記念館に展示しました。会期中には、出品作家によるギャラリートーク及び座談会を開催しました。また、小平市文化振興財団と連携して、ルネこだいらを会場に、武蔵野美術大学の学生の指導による市民向けの木彫ワークショップを開催しました。

(3) 共生社会の推進

▽目的

東京 2020 大会の大会ビジョンの一つである「多様性と調和」をレガシーとするため、一人一人が自分らしく生き生きと暮らせる多様性に配慮したまちづくりを目指す。

▽事業

障がい者運動会での取組(障がい者支援課)(平成 28 年度～令和元年度)

東京 2020 大会開催決定を契機に、障がい者スポーツの一層の促進と気運の醸成を図るため、毎年開催される障がい者運動会で障がい者スポーツのデモンストレーションと体験を実施しました。「サッカー」に着目し、比較的軽度の脳性まひ選手がプレーできるように考案された「脳性まひ者 7 人制サッカー(CP サッカー)」や主に上肢、下肢の切断障がいを持った選手による「アンプティサッカー」、視覚障がい者による「5 人制サッカー(ブラインドサッカー)」の体験を行い、選手と参加者との交流を行いました。



男女共同参画推進事業(平成 29 年度～令和 3 年度)

東京 2020 参画プログラム認証事業として、性的少数者の方たちが経験する困難や問題について理解し、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指すため、性の多様性について学ぶ人権(LGBT)講座を開催しました。



景観まちづくりセミナー（平成 30 年度）

東京 2020 参画プログラム認証事業として、“公共サイン”に着目し、まち歩きを通して、ユニバーサルデザインや誰もが利用しやすいまちをつくるためのアイデアを考えるワークショップを開催しました。



（４）まちの魅力発信とおもてなし力の向上

▽目的

東京 2020 大会の開催を契機として、国際交流や異文化理解の促進を図るとともに、東京を訪れる来訪者に小平の魅力を知り、楽しんでいただくために、地域のおもてなし力の向上を図る。また、東京 2020 大会のボランティアや地域の語学支援など、活躍できる人材の育成につなげる。

▽事業

外国人おもてなし事業（平成 27 年度～令和 2 年度）

① 平成 27 年度・28 年度

平榊田中彫刻美術館「秋のお茶会」に在住外国人を招き、着物を着て日本文化を体験するイベントを開催しました。当日は小平市国際交流協会の通訳ボランティアが通訳を行いました。



② 平成 29 年度

在住外国人を対象に、平榊田中彫刻美術館と小平ふるさと村で着物を着て日本文化（琴と茶道）を体験するイベントを開催しました。

また、観光まちづくりと多文化共生の両面から「やさしい日本語」の活用を始め、事前に「やさしい日本語」に関する講座を実施しました。講座の受講者は学習の成果を活かし、その後のおもてなし事業のガイドで活躍しました。「やさしい日本語」での対応が難しい専門用語や固有名詞などはフリップ（漢字・ふりがな・英語）を補助的に用い、必要な方へは小平市国際交流協会の通訳ボランティアが通訳する仕組みで運営しました。



③ 平成 30 年度

「訪日外国人へのおもてなし対応」「やさしい日本語」と「多言語音声翻訳」についての講座を開催し、実践しながら学んでいくプログラムを実施しました。

【体験プログラム①】市内イベント、観光施設でのおもてなし体験

中央公民館「サークルフェア」やガスミュージアム、多摩六都科学館、商店街で「やさしい日本語」と「多言語音声翻訳」を活用し、講座受講者と施設職員が、在住外国人を訪日外国人に見立てて案内する体験を行いました。体験後、在住外国人に案内の仕方や施設の多言語対応についてアドバイスをいただくための振り返りを行いました。



【体験プログラム②】外国人へのヒアリング体験

東京 2020 大会時を想定し、新宿駅南口エリアで訪日外国人へのヒアリングを通して体験学習を行いました。

④ 令和元年度、令和 2 年度

「やさしい日本語」と「おもてなし」に関する講座とワークショップを開催しました。

市内回遊型イベント「めぐりん小平」(平成 29 年度～令和 3 年度)

こだいら観光まちづくり協会と連携し、オリンピック・パラリンピックや小平に関する「なぞ」を解きながら市内の観光施設や文化施設を巡るイベントを開催しました。平成 30 年度からは、回遊ポイントに農産物直売所や飲食店、市内で行われる文化プログラムを含めることで、市内産業の活性化と文化の魅力発信に繋げることを目指しました。

市内全域で東京 2020 大会を盛り上げようと多くの施設が参加し、イベントの前にはアイデアや課題を持ち寄り、情報交換を行うことによって、多くの観光客が東京を訪れる東京 2020 大会に向けて、来訪者をおもてなしする準備を行いました。また、めぐりん小平のコースを巡るプロモーション動画の制作や SNS を活用するなどして小平の魅力を市内外へ発信しました。



国際理解講座・語学講座 (平成 27 年度～令和 3 年度)

公民館でオリンピック・パラリンピック参加国について理解を深める講座や語学講座を実施しました。外国の文化、風習を学び、身近に感じてもらうとともに、外国の方とのコミュニケーションの取り方を学び、交流、仲間づくりを進めることで、地域に住む外国の方の生活に必要な語学支援など、東京 2020 大会後も地域で活躍できる人材の育成に繋げることを目指しました。



(5) 市民参加・協働の推進

▽目的

東京 2020 大会に向けて、市民が具体的に取り組むことができる分野として、「文化」「おもてなし」「共生社会」を提案し、市民がオリンピック・パラリンピックに参画するきっかけとなることを目指す。

▽事業

東京 2020、わたしができること～リオ 2016 大会活動報告会～
平成 29 年 2 月 18 日 来場者：60 人

「オリンピック・パラリンピックはアスリートだけでなく、地域みんなが主役」をコンセプトに、2016 年夏、ブラジルで開催されたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックを体験された方から、経験談や現地の様子とともに、東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向けた想いをお話しいただきました。



東京 2020 に向けた市民ミーティング in 小平
平成 30 年 2 月～3 月 参加者：延べ 144 人

「みんなでつくるオリンピック・パラリンピック」をコンセプトに、小平ゆかりのアスリートなどをお招きし、オリンピック・パラリンピックへの思い、東京 2020 大会に市民として関わりたいことなどをお話しいただきました。

その後、「文化」「おもてなし」「共生社会」に関する講演と、東京 2020 大会に向けてそれぞれの分野でどのような関わり方ができるかを考えるワークショップを開催しました。



3. 東京 2020 大会開催時の取組

(1) 聖火リレー

東京 2020 オリンピック聖火リレー 点火セレモニー

令和 3 年 7 月 13 日 国立療養所多磨全生園 (東村山市)

東京 2020 オリンピック聖火リレーは令和 3 年 3 月 25 日に福島県からスタートし、日本全国を回りました。

小平市における東京 2020 オリンピック聖火リレーは、7 月 13 日に上水南町交差点を出発し、小平駅南口ロータリーまでの約 3 km を走り、小平駅前で聖火の到着を祝う「ミニセレブレーション」を実施する予定でした。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により 6 月 29 日に公道走行の中止が決定され、当日活動を予定していたボランティアの方々の活動の場もなくなりました。

公道走行は中止となりましたが、東村山市で点火セレモニーが行われ、小平市のランナーも参加し、聖火を繋ぎました。

当日は、ルネこだいらがコレクションポイントとなり、同日走行を予定していた国立市、国分寺市、小平市、東大和市、東村山市のランナーの拠点として重要な役割を果たしました。



東京 2020 パラリンピック聖火リレー 採火式

令和 3 年 8 月 20 日 鈴木遺跡資料館

東京 2020 パラリンピック聖火リレーでは、各市区町村で採火した火を、1 つにまとめて聖火リレーの「東京都の火」としました。

小平市では、鈴木遺跡が国指定史跡となったことを記念して、鈴木小学校の 6 年生の皆さんが「舞hiri式」という伝統的な方法で起こした火を「小平市の火」としました。

東京都を含む 47 都道府県とパラリンピック発祥の地であるイギリスのストーク・マンデビルの火が東京に集まり、1 つの炎に統合する全国集火式が行われ、統合された火は「東京 2020 パラリンピック聖火」となり、8 月 21 日から 24 日にかけて都内で聖火が繋がれました。



東京 2020 オリンピック聖火リレーサポーター募集

東京 2020 オリンピック聖火リレーの市内コース沿道の走行管理や沿道周辺の観衆・雑踏の整理、セレブレーション会場の運営にご協力いただく「小平市聖火リレーサポーター」を募集し、300 名以上の方からご応募いただきました。

一般公募のほか、小平市体育協会、小平市交通安全協会、小平市スポーツ推進委員、市職員で構成し、聖火リレー当日に向けて準備を行いました。

※東京 2020 オリンピック聖火リレーの実施方法の変更(公道走行の中止)

により、聖火リレーサポーターの活動は中止となりました。

2021.7.13
東京2020オリンピック聖火リレー
小平市
聖火リレーサポーター
募集
募集期間
2月20日(土)
~3月31日(水)
●お問い合わせ先
小平市地域振興課文化スポーツ課
〒182-0812
〒182-0812
TEL 042-346-9812
E-MAIL shirakawa@city.kodaira.lg.jp

(2) 小平市ゆかりの選手応援イベント

新型コロナウイルス感染症の影響で、会場での競技観戦やオリンピック・パラリンピック関連イベントの実施が困難となるなか、小平市ゆかりの選手を応援するための動画を制作し、動画投稿サイトYouTubeで配信しました。

小平市からは、小平第三小学校出身の村上茉愛選手（体操）と、小平第十五小学校出身の小田倉真選手（トライアスロン）が東京2020オリンピック競技大会に出場しました。

動画では、お二人の出身小学校の児童から、元気いっぱいの応援メッセージを届けました。

また、大会終了後には、お二人から市民へ感謝のメッセージをいただき、動画で配信しました。

①第一弾 小平市ゆかりの選手応援オンラインイベント

令和3年7月24日（土）配信開始

ゲスト：鶴見虹子さん（体操） ロンドン・北京オリンピック代表
加藤友里恵さん（トライアスロン） リオオリンピック代表

②第二弾 小平市ゆかりの選手からの感謝のメッセージ

令和3年8月28日（土）配信開始

③第三弾 小平市ゆかりの選手へ 市民から感謝のメッセージ

令和3年9月11日（土）配信開始



小平市ゆかりの選手とオリンピック試合結果

■村上茉愛選手／体操

団 体 5位入賞

個人総合 5位入賞（日本歴代最高順位）

種目別ゆか 銅メダル（個人種目では日本女子初のメダル獲得）

■小田倉真選手／トライアスロン

男 子 19位

混合リレー 13位

4. 市民協働・地域連携の取組

(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクト

団体の結成

平成 30 年 2 月、市主催で開催した「東京 2020 に向けた市民ミーティング in 小平」をきっかけとした数回にわたるワークショップの中で、「オリンピック・パラリンピックで小平市を盛り上げたい」という思いのもと集結した市民により、同年 8 月、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクト」(以下、「市民プロジェクト」)が立ち上がりました。



設立の目的

「東京 2020 オリンピック・パラリンピックをきっかけに、世代・地域・国籍・文化のちがいを、障がいの有無を超えて、人と人とがつながり、認め合い、感動体験を共有することで、未来にわたって『みんなの思いを包み込むまち小平』をつくること」を目指すため設立されました。



この目的は、参加している市民が東京 2020 大会のコンセプトやオリンピックズムを学び、多くの対話によって検討されたものです。

目的の達成に向けて、スポーツ・文化・環境の 3 分野において、①東京 2020 大会に向かってみんなで盛り上げる事業と、②東京 2020 大会をきっかけに小平にレガシーを残す事業を数多く実施しました。

東京 2020 大会までの活動

市民まつり、みんなで作る音楽祭、グリーンフェスティバル、国際交流フェスティバル、元気村まつりなど、市の様々なイベントへ参加し、アンケートやクイズを通して東京 2020 大会の意義を多くの市民に伝えました。



障がいの有無や国籍に関係なく誰もが一緒に楽しみ、交流を深めることができるダイバーシティ&インクルージョンを目指し、スポーツチームではポッチャの体験会、文化チームでは東京五輪音頭ー 2020 ーの体験会を学校、公民館、福祉施設、自治会や地域のお祭りで行うなど、様々なコミュニティと連携して活動しました。



また、環境チームでは、サステナブル（持続可能）な社会を目指し、スポーツゴミ拾いイベントを初開催するなど、スポーツ・文化・環境の 3 分野で新たな事業を打ち出し、東京 2020 大会に向けた気運醸成とレガシーの創出に向けた取組を行いました。



広報活動

市民プロジェクトの活動の成果や東京2020大会の情報については、広報チームによって作成する新聞「2020(フレイフレー) こだいら」で積極的に発信を行いました。

また、市報こだいらにも掲載されました。

■ 「2020 (フレイフレー) こだいら」 発行実績

- 第1号：東京2020大会開催まであと1年！「ポッチャ体験会」開催
- 第2号：ゴミ拾いはスポーツだ！「スポGOMI大会」開催
- 第3号：東京2020大会に向けた「GAP認証」取得の取組
- 第4号：オリンピック近しを実感！「日本オリンピックミュージアム」見学
- 第5号：東京2020パラリンピック 5人制サッカーを応援しよう
- 第6号：世界に挑むトライアスリート 小田倉真選手へエール
- 第7号：「スポーツ&カルチャーフェスティバルin こだいら」開催
- 第8号：スポーツ&カルチャーフェスティバル特別号
- 第9号：「スポーツ&カルチャーフェスティバルin こだいら」を開催しました



(2) スポーツ&カルチャーフェスティバル in こだいら

スポーツ & カルチャーフェスティバル in こだいら

令和3年7月24日～8月8日、8月26日～9月5日 ルネこだいら

東京2020大会が開催された令和3年7月から9月、市民プロジェクトの創立から3年半に渡る活動の集大成として、市との協働事業「スポーツ&カルチャーフェスティバル in こだいら」を開催しました。

東京2020大会が1年延期となるなか、本イベントの企画・運営の裏には、市民プロジェクトをはじめ、関わった市民の並々ならぬ努力がありました。新型コロナウイルス感染症の拡大により思うように活動ができないなかで、令和3年度に開催できることを願い、オンライン会議を活用し、開催方法や感染症対策についてメンバー間で対話を重ね、市の担当者とも協議を行いました。このような市民の努力が実り、オリンピック・パラリンピック期間に開催することができました。



【展示】

市民プロジェクトのメンバーの手作りによるオリンピック・パラリンピックに関する展示や、市内の小学生によるオリンピック・パラリンピック競技の絵画展、文化・環境に関する展示など、期間中、様々なコンセプトの展示を行いました。

環境展示のプレイベントでは、「いきものつながりワークショップ」を開催し、たくさん子どもたちが参加しました。ワークショップで子どもたちが描いた絵は、環境展示のなかで展示しました。



【体験】

スポーツ体験では、ボッチャの体験会を実施し、外国の方、車いすの方、子どもから高齢者までたくさんの方が参加し、トーナメント戦で盛り上がりました。

文化体験では、小学生を対象に昔遊び体験を行いました。夏休み期間中の子どもたちが夢中になって、ぶんぶんごまや割りばし鉄砲などの昔遊びを楽しんでいました。



【ステージイベント】

ルネこだいらの大ホールのステージでは、市内で活動するアーティストによる音楽やダンスが披露されました。ステージのフィナーレでは、市民による「東京五輪音頭 - 2020 -」が披露され、足の不自由な方への配慮として座ったまま踊れる「車いすバージョン」の振り付け役を配置したほか、聴覚に障がいのある方への配慮として太鼓でリズムをとったり、まさに市民プロジェクトが目指してきた「ダイバーシティ & インクルージョン」を体現したイベントとなりました。

また、入場制限や外出を控える方に配慮して、市民団体の協力によりインターネット中継を行ったほか、地元企業の協力により、着物をアレンジした着付けを行い、子どもから大人まで多くの方が参加しました。

メンバーからのことば

平成30年3月に私たち30人の仲間は初めて出会い、オリンピック・パラリンピックを契機にふるさと小平に何かレガシーを残そうという目的で、プロジェクトを立ち上げました。何をするか考える中で、スポーツ、文化芸術、環境の3つのチームができ、さまざまな活動を積み重ねてきました。

令和2年3月コロナ禍で東京2020大会が延期になり、プロジェクトの活動は中断し、メンバーのモチベーションも上がらない日々が続きました。しかし仲間は誰も希望を捨てませんでした。令和3年7月にスポーツ & カルチャーフェスティバルを実現させ、多くの市民、子どもたちが参加してくれました。本当に嬉しかったです。感謝です。今後もふるさと小平のためになる活動をするため、オリンピック・パラリンピックにもこだわりながら素晴らしい仲間と企画を考えます。



(3) 地域の団体との連携

小平市体育協会

東京 2020 大会 1 年前イベント「オリンピック・パラリンピック競技を体験しよう」を開催し、バスケットボール教室や五輪音頭で大会 1 年前を盛り上げたほか、パラ卓球選手を招いた卓球大会を実施するなど、オリンピック・パラリンピック気運醸成事業やスポーツ事業を数多く実施しました。

また、小平市ゆかりの選手の応援として、市民総合体育館内に選手の応援コーナーを設けたほか、大会期間中には懸垂幕の掲出や応援ブースの設置などを行い、東京 2020 大会を盛り上げました。



小平市文化振興財団

東京 2020 大会期間中に、市と市民団体と協力して、ルネこだいらで「スポーツ&カルチャーフェスティバル in こだいら」を開催したほか、東京 2020 オリンピック聖火リレー点火セレモニーでは、5つの自治体の聖火ランナーの拠点（コレクションポイント）として、重要な役割を果たしました。

また、文化振興財団の主催事業の多くが東京 2020 公認プログラムの認証を受け、東京 2020 大会を契機とした文化振興の推進の一役を担いました。



小平市国際交流協会

在住外国人を対象に、平櫛田中彫刻美術館と小平ふるさと村で着物を着て日本文化（琴と茶道）を体験する外国人おもてなし事業を市と連携して実施したほか、国際交流フェスティバルでオリンピック・パラリンピック PR ブースを設けるなど、国際交流事業や東京 2020 大会の気運醸成に向けた取組を行いました。

また、東京都おもてなし語学ボランティア養成講座を開催するなど、東京 2020 大会に向けたおもてなし力の向上の一役を担いました。



小平市民活動支援センターあすぴあ

令和元年度に、「東京 2020 大会と市民活動」をテーマとした市民活動交流サロンを開催したほか、令和 3 年度には、東京 2020 パラリンピック競技大会の閉会日である 9 月 5 日に、障がいのある人もない人も尊重し支え合う社会の実現のため、「共に生きる」をテーマとしたサロンを開催するなど、「市民活動」「共生社会の推進」において大きなレガシーを残しました。

小平市社会福祉協議会

市と連携し、平成 28 年度は障がい者スポーツ体験教室、平成 29 年度はボッチャ交流会を実施しました。平成 30 年度に実施した「あおぞらパラスポーツフェスタ」では、東京 2020 応援プログラムの認証を受け、パラ卓球選手との交流を行いました。

また、市内各公民館のボッチャ講座への協力に加え、毎年開催されるニュースポーツデーでは卓球バレーやボッチャなど、障がいの有無に関わらず誰もが楽しめるスポーツを市と協力して推進しました。

そのほか、障がい当事者や関係団体等とともに実施してきた福祉体験学習では、新たにボッチャを通じた交流を市内小中学校等で行うなど、オリンピック・パラリンピックへの気運醸成と共生社会の推進において大きな役割を担いました。



こだいら観光まちづくり協会

市と連携して実施した「めぐりん小平」において「地域宣伝隊コダレンジャー」のオリンピック・パラリンピック 55 競技バージョンを制作し、PR することで東京 2020 大会を盛り上げました。

また、市の観光ガイドブックの多言語化を進めたほか、小平を訪れる方に小平を楽しんでもらうために「おもてなし」のコツを学ぶセミナーを開催するなど、多くの観光客が東京を訪れる東京 2020 大会開催に向けた取組を数多く実施し、「まちの魅力発信とおもてなし力の向上」の分野で大きなレガシーを残しました。



小平商工会

小平商工会内にスポーツ・文化活性化委員会を設け、東京 2020 大会に向けた気運醸成の取組について話し合いました。

令和元年度には、小平市ゆかりの選手を応援するための横断幕を作成し、オリンピック 1 年前イベントで応援ブースを出展したほか、産業まつりでは、パラ卓球選手を招き、卓球のデモンストレーションを行いました。令和 3 年度には、選手を応援する懸垂幕を商工会館に掲げ、東京 2020 大会を盛り上げました。



J A 東京むさし小平支店

東京 2020 大会の選手村で提供される食事には「GAP 認証」が条件とされました。GAP (Good Agricultural Practice) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことです。J A 東京むさし小平支店でも、東京 2020 大会開催を契機に「GAP 認証」の取得を目指す農業者の支援を行い、小平市でも多くの農家が「GAP 認証」を取得しました。

5. レガシー

(1) スポーツ習慣の定着

障がい者や高齢者など、様々な人がスポーツの楽しさを享受できるユニバーサルスポーツやボッチャをはじめとしたパラスポーツの普及により、子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず誰もがスポーツに親しめる環境づくりが進んでいます。また、継続したスポーツ活動の実施によりスポーツ習慣の定着が図られています。

(2) 芸術文化の裾野拡大

日本の文化に注目が集まる東京 2020 大会を好機と捉え、小平市文化振興財団や平櫛田中彫刻美術館を中心に、市内の大学や市民と連携して文化振興・魅力発信に向けた取組を行ったことにより、文化芸術の裾野を広げ、東京 2020 大会を契機とした継続した文化振興の推進につながっています。

(3) 共生社会の推進

「多様性と調和」をビジョンとする東京 2020 大会を契機に、パラスポーツの普及や男女共同参画の推進、障がい者理解の啓発などにより、一人一人が大切にされ、自分らしく生きていける共生社会の推進が図られています。また、外国人おもてなし事業などで国際交流の機会を創出したことにより、心のバリアフリーが進んでいます。

(4) まちの魅力発信とおもてなし力の向上

市の多様な事業者や団体と連携して実施した「めぐりん小平」や、市内施設や街歩きコースを紹介したプロモーション動画の制作等により、様々な媒体を活用した市の魅力発信の取組が進んでいます。また、外国人おもてなし事業の実施により、市民のおもてなし力が向上し、市民主体のおもてなし体制がつくられています。

(5) 子どもたちの記憶に残る学びと経験

子どもを対象としたスポーツ教室や教育現場と連携した体験授業の実施、文化を体験できるイベントの実施により、子どもたちにとって貴重な学びと経験の場が提供できています。また、小平市ゆかりの選手の応援や聖火リレー採火式、スポーツ&カルチャーフェスティバル in こだいらでの体験を通じて、多くの子どもたちがかけがえのない感動を共有することができました。

(6) 市民参加・協働の推進

市と市民が協働して開催したスポーツ&カルチャーフェスティバル in こだいらやスポーツボランティアをはじめとした様々な分野でのボランティア活動が活性化するなど、東京 2020 大会を契機として、市民参加や協働が推進され、地域コミュニティの活性化につながっています。

(7) スポーツ施設の改善

東京 2020 大会を契機として、市民総合体育館第一体育室への空調設備の設置やトイレの洋式化を進めるなど、誰もが快適にスポーツができる環境づくりが図られています。

(8) 多言語対応の推進

平櫛田中彫刻美術館でパンフレットや音声ガイドの多言語対応を行ったほか、市内の観光ガイドブックの多言語対応が進んでいます。また、「やさしい日本語」の活用を進めることにより、東京 2020 大会を契機として、誰もが暮らしやすい・訪れやすいまちづくりにつながっています。

6. 資料

(1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 大会概要

- 大会名称：①第32回オリンピック競技大会
②東京2020パラリンピック競技大会

- 開催期間：①令和3年7月23日(金)～8月8日(日)
②令和3年8月24日(火)～9月5日(日)
※新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受け、2020年夏の開催から1年延期して開催されました。開催の延期は近代オリンピック史上初めてのことでした。大会の延期により開催年は変わりましたが、「東京2020」の名称は変更されませんでした。

- 大会ビジョン：スポーツには世界と未来を変える力がある。
※「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」を3つの基本コンセプトとしました。

- 大会エンブレム：組市松紋(くみいちまつもん)



- 大会マスコット：



- 競技：① 33 競技・339 種目・42 会場
水泳・アーチェリー・陸上競技・バドミントン・野球・ソフトボール・バスケットボール・ボクシング・カヌー・自転車競技・馬術・フェンシング・サッカー・ゴルフ・体操・ハンドボール・ホッケー・柔道・空手・近代五種・ボート・ラグビー・セーリング・射撃・スケートボード・スポーツクライミング・サーフィニング・卓球・テコンドー・テニス・トライアスロン・バレーボール・ウエイトリフティング・レスリング
② 22 競技・539 種目・21 会場
アーチェリー・陸上競技・バドミントン・ボッチャ・カヌー・自転車競技・馬術・5人制サッカー・ゴールボール・柔道・パワーリフティング・ボート・射撃・シットイングバレーボール・水泳・卓球・テコンドー・トライアスロン・車いすバスケットボール・車いすフェンシング・車いすラグビー・車いすテニス

- 参加国等：① 205 の国・地域及び難民選手団
② 162 の国・地域及び難民選手団

(2) 東京 2020 大会に向けた小平市の庁内体制

■東京オリンピック・パラリンピック こだいら推進本部

目的：東京 2020 大会開催を契機に、市民・地域とともにオール小平で、さらなるスポーツの振興及び地域の活性化を目指し、その関連施策を総合的かつ計画的に推進することを目的に設置。

構成：市長、副市長、教育長、部長職

■庁内関係課推進委員会

目的：スポーツ所管課だけでなく庁内からも気運醸成を図り、多様な事業を全庁横断的に展開し円滑に事業を推進するため、推進本部の下部組織として、庶務担当課長等で構成された委員会を設置。

構成：文化スポーツ担当部長、スポーツ振興担当課長、議会事務局次長、政策課長、総務課長、市民課長、市民協働・男女参画推進課長、文化スポーツ課長、子育て支援課長、生活支援課長、環境政策課長、都市計画課長、会計課長、教育総務課長

■庁内プロジェクトチーム

目的：スポーツ所管課だけでなく庁内からも気運醸成を図り、多様な事業を全庁横断的に展開するため、職員のプロジェクトチームを立ち上げ、さらなるスポーツの振興及び地域の活性化へ向けた取組を具体的に検討し、事業の企画・立案を行った。

■活動内容

①東京オリンピック・パラリンピック こだいら推進本部

全9回開催

②庁内関係課推進委員会

全10回開催

③庁内プロジェクトチーム

- ・オリンピック・パラリンピック小平こども新聞の発行
- ・オリ・パラ通信の発行
- ・イベントのユニバーサルデザイン化及び多言語対応の調査研究
- ・「ユニバーサルデザイン」や「誰もが利用しやすいまちをつくるためのアイデア」を考え、“ひと”にやさしいまちの将来像を話し合うまち歩きとワークショップの開催（都市計画課との連携）
- ・パラリンピック競技ポッチャの普及



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた
小平市の取組報告書

令和4(2022)年3月 発行

編集・発行 小平市地域振興部文化スポーツ課

〒187-8701 東京都小平市小川町2丁目1333番地

電話：042(346)9612

Email：cdc0020@city.kodaira.lg.jp

